

# 九条の会

2008・7・31

第 112 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303  
TEL 03-3221-5075  
FAX 03-3221-5076

## 創意こらし、地域に密着した取り組み

### 「サロン九条」が 100 回に

**【岐阜九条の会】** 岐阜九条の会は 7 月 8 日、通算 100 回目の「サロン九条」を開きました。「サロン九条」は 2004 年 2 月から毎週開かれており、ミニ講演会とトークを中心に、地域で平和活動に取り組んでいる人を招いて討論してきました。

この日は、まず児童文学作家の平方浩介氏が「アメリカとの付き合い方」と題して講演し、米国の特徴や憲法 9 条を戦後すぐに変えようとしていたことなどを述べ、「自分をしっかりもって付き合うことが大事だ。9 条を守ることが日本の道」と強調しました。講演の後、参加者は平和や真実を見据えることの大切さなどについて話し合いました。

**【岐阜市・長良九条の会】** 岐阜市の長良九条の会は 7 月 9 日、昨年が続いて、地域の 5 つの寺院の協力を得て、「平和の鐘つき」を行いました。

この日は岐阜空襲の日です。63 年前の 7 月 9、12 の両日、米軍の B29 爆撃機による焼夷弾攻撃で 863 人が死亡し、20,426 戸が

### 「九条の会」事務局学習会

- ◇テーマ 名古屋高裁判決と派兵恒久法
- ◇9 月 13 日（土）午後 1 時 30 分～4 時
- ◇会場 星陵会館（地下鉄・永田町下車）
- ◇講師
  - 小林武（愛知大学教授）  
—名古屋高裁イラク訴訟で鑑定意見書
  - 半田滋（東京新聞編集委員）  
—自衛隊の実態を克明に調査
  - 渡辺治（一橋大学教授）  
—今日の情勢と派兵恒久法を語る
- ◇参加費 1000 円

焼失しました。

「私たちはあの日を決して忘れません」と印刷された岐阜仏教会のポスターが貼られた各寺で、朝 9 時から「鐘つき」が始まりました。真龍寺では住職が、「平和への願いは、宗派、政治の違いを超えたもの。力を合わせて世界の平和を実現しましょう」と訴えました。各寺では住民も参加し、鐘をついたり、平和談義や戦争体験を語り合いました。多くの寺で、戦時中は鐘を軍に供出させられ、戦後に再建されたことなどが紹介されました。

## 戦争体験を語る会で全員が発言

**【広島市・中広「九条の会」** 西区の中広中学校区「九条の会」は7月13日、「原爆・戦争を語り合う集い」を開き、27人が参加しました。全米原爆展などに出向いて被爆体験を語っている嘉屋重順子さんが爆心から1・3キロの自宅で被爆し、火中を逃げた体験を紹介。また、原爆被害者相談員の会の三宅文枝さんが、「私は間接被爆者として、被爆者に代わって、被爆体験を継承していきたい」と語りました。

これをうけて参加者全員が発言、自らの戦争体験や親から聞いた話などを出し合いました。「戦争が始まったら、食べる物も着る物もない。原爆で遺骨さえ見つからない子を思う親の気持ちを思うといたたまれない」との発言も。

集いに参加していた広島市立大広島平和研究所の浅井基文所長は、「三年前に広島に移り住んだが、こんな貴重な話をまとめて聞いたのは初めて」と感想を述べました。

## 高校生の平和活動に学ぶ

**【鹿児島市・吉野九条の会** 吉野九条の会は7月13日、「高校生の平和活動に学ぶ会」を開き、60人が参加しました。

会では、第10代高校生平和大使となった笛田満里奈さん（県立高校3年生）が、ソウル、ジュネーブ、ペルーなどを訪ね、核兵器廃絶を訴えてきた体験を報告しました。

今年3月、韓国の被爆者を見舞い、地元高校生と平和交流をした4人の高校生も報告しました。そのなかでは、『元気で長生きしてください』と被爆者を励ましたら、『早く死にたい』といわれてショックでした」との感想や、「韓国高校生の積極的な署

名行動に圧倒された。日本でも多くの署名を集め核兵器をなくしたい」といった決意が語られました。

## 分野の会や県の会が交流集会

**【新潟・農林水産9条の会** 新潟・農林水産九条の会は7月12日、第3回交流集会を開きました。

集会では前農業・農協問題研究所理事長の暉峻衆三氏が講演、現在の食糧・原油高の問題は、1970年代のスタグフレーション（不況下のインフレ）と同じで、輸出規制は世界で暴動と飢餓をいっそう増幅させることを指摘するとともに、改憲派が日本は食糧自給率が低い国だから軍備強化が必要と主張していることを紹介、9条を守る意義を強調しました。4人のパネリストがそれぞれの戦争体験等を報告しました。

**【和歌山県内九条の会** 7月5日、和歌山県「9条の会」交流集会が開かれ、県内各地から51団体214名が参加しました。

交流会は、6月末に結成されたばかりの「和歌山うたごえ九条の会」による合唱で始まりしました。

開会あいさつにつづいて、冒頭スピーチがおこなわれ、和歌山法曹界の重鎮の月山桂弁護士は、「自民党の中では海外派兵の恒久法を立法化しようとしている。9条改悪は遠ざかったわけではない」と述べ、白浜バプテスト教会の藤藪庸一牧師は、「憲法はこの国のすすむべき理想を示している」と強調しました。

交流会では、地域や職場、文化活動などさまざまな分野の21の九条の会が活動報告をしました。